

# わ せ だ ゆ き 早稲田夕季のひまわり通信

2009年7月 No.22

## あなたの声で政治は変わります

4月26日の市議会議員選挙ではトップ当選をさせていただき、2期目がスタートしました。今後も皆様からのご指導ご鞭撻をいただきながら、しっかりと議会活動に取り組んでまいります。



### ◆ 6月定例会の一般質問・報告 ◆

#### 質問 1

新たな公会計制度ってなに？  
市民一人当たりのバランスシート、  
他自治体との比較の公開を！

鎌倉市は秋に、総務省改定モデルによる20年度決算の公表を予定しています。普通会計ベースと、それ以外の特別会計や公社などを含めた連結財務4表を作成し、初めて市全体の財務状況を公開。これまでの「市税がいくら入って、何にいくら使ったか」という1年間の収支バランスだけでなく、民間企業並みに市の資産がどれだけ蓄積されて、そのために将来市民がどれだけ借金を負担しなければならないか、行政サービスにどれくらいのコストがかかったか、明らかにあります。詳細は6月定例会後に「報告」します！

#### 質問 2

補助金の見直し - 既得権にとらわれず公募制、第3者機関による審査を導入してはどうか

鎌倉市の団体補助金は、約4割の団体に30年以上、約6割の団体に20年以上、変わらずに支出されています。21年度新たに対象となったのは1団体のみ(廃止は3件)。これでは市民自治の新たな担い手を発掘することはできません。行革推進課を中心にゼロベースからの見直しが行われており、21年度の補助金予算額は前年度比1億2千5百万円減額の15億3千万円で、年々減額傾向です。

「補助金はあくまで自立のための経過措置、行政依存型はもとより、自立が認められた団体にも出さない」として、公募制や第3者機関による審査を導入した我孫子市等を参考に、補助金の原点に立ち返った見直しを提案しました。

### 陣中見舞い問題で「石渡市長の辞職勧告決議」を可決

市長の陣中見舞いにかかる問題で、民主党、ネットワーク鎌倉、共産党、鎌倉無所属の会の4会派から辞職勧告決議を提出し、採決の結果13:13の可否同数の末、議長裁決で可決されました。辞職勧告決議には法的拘束力がなく、市長は「法的、道義的な責任は感じていない」としました。

鎌倉市議選の告示日に、市長と同行した政治団体会計責任者が後援会幹部から預かったとされる陣中見舞いののし袋を複数の候補者に配ったことは、大変不透明で信頼を損ねる問題です。問題なしとされれば今後このような行為が横行し、政治の浄化を妨げる結果となります。

市民は清廉潔白な政治を期待しており、今回の問題はまさにそうした市民感情に反するものです。市長は後援会幹部の個人の問題としていますが、公人として疑念を抱かせるような行為を黙認したことは、道義的責任があると考え、辞職勧告決議に賛成しました。



#### 質問 3

#### 第一小学校区に学童保育「子どもの家」の本設を早急に

全小学校区に子どもの家の設置が完了したとはいえ、事実上は小学校から遠かった「だいいち子どもの家」は、長谷から暫定的に「おなり子どもの家」、由比ガ浜公会堂へと移転し、子どもたちの放課後の居場所が定まらない状態が続いています。国も経済不況を受けて、「安心子ども基金」(1,000億円)を学童保育の新設などに活用できるようにしました。

こうした機会をとらえて、児童数が今後も増えると予想される鎌倉地域に、何としても放課後の生活の場を確保していかなければなりません。現在候補地として上がっている第一小学校用地、鎌倉体育館の駐車場部分の活用を早急に検討してほしいと要望しました。青少年課、市長の答弁では「教育委員会、スポーツ利用団体との調整は必要であるが、子どもたちの放課後の健全育成には欠かせない喫緊の課題として、来年度の実施計画に入れられるように早い時期に候補地案の結論を出したい」としました。大船、玉縄など学校から遠い、又は利用者が多く過密状態になっている施設についても、学校の余裕スペースや幼稚園、既存の公共施設などを利用した整備が必要です。

# 早稲田夕季:4年間の振り返り (Plan・Do・Check・Action)

バックナンバーはHPをご覧ください!

No.20 「まちづくり」

No.21 「教育・子育て」

## ◆行財政改革・議会改革◆

(※)行政の取り組みに対する評価

解決すべき課題	早稲田夕季の提言	行政(議会)の現状	評価(※)
<b>税金のムダづかいの排除、適材適所による職員の配置</b> ・超過勤務手当が年間7~8億円と恒常化しており、各部で格差が大きい ・心的ストレスを感じている職員が増えている。	<b>適材適所による人事配置、職員数の適正化、超過勤務の削減</b> ・恒常的な残業が多い部署を正確に把握して、適材適所の人事配置によりやる気を引き出し、積極的な職務ができる組織作りをする。	・H23年度から適正な勤務評価が反映される昇格や人事配置を実施するための準備をしている。 ・全職員の超過勤務手当はH19年度決算で8億3,000万円(総人件費の5.8%)で、前年比1億2,000万円の増額。選挙、台風等でばらつきはあるが、恒常的になっている。 ・職員数適正化計画により150人減、5年間で33億円の人件費削減を見込んでいるが、類似する自治体と比較して市民1人当たりの職員数は依然として多い。	😊
<b>多発する行政の不祥事の改善</b>	<b>・市民の立場に立ったまちづくり条例・開発手続き条例等の見直し</b> ・民主党市議団として「職員公益通報制度」の条例化を提案している。	・市長をトップとした職員意識改革委員会を設置したが、依然として具体策が見えない。 ・職員公益通報制度の抜本的改革に踏み切れていない。	😞
<b>補助金制度の見直し、市民との協働事業の活性化</b>	<b>補助金の公募制、第三者機関による審査</b> ・既得権をなくし、市民活動の活性化を図る。	・内部の補助金見直し部会がゼロベースからの見直しを行っている。 ・H21年度補助金は、前年比マイナス1億2,500万円の15億3,000万円で、年々削減されている。 ・新規団体は5件に止まり、6割の団体に20年以上継続して出している。	😞
<b>議員定数の検討、開かれたわかりやすい議会改革</b>	<b>議員定数の削減、出前議会報告会、政治倫理条例の制定</b> ・民主党市議団は将来の市町村合併も視野に入れて、現行の28人を12人に削減することを提案した。 ・個人的に「ご近所トーク」を開催し、地域住民と意見交換をしてきたが、市議会として地域に向いて報告や意見交換を行う仕組みをつくる。	・議員定数について、改選前には多数会派が現行通りと主張し、削減できなかった。 ・新たな議会改革として、議員定数の削減等について早い時期に協議していく。	😞

## 早稲田夕季プロフィール

- 鎌倉市議会議員(2期)、建設常任委員
- 昭和33年12月6日生まれ
- 白百合学園小・中・高校、早稲田大学法学部卒業
- 日本輸出入銀行・地元ミニコミ紙記者
- 早稲田大学鎌倉校友会・鎌倉日仏協会・鎌倉同人会  
鎌倉ホームヘルプ協会ベルの会・鎌倉風致保存会  
カトリック雪ノ下教会に所属



大石尚子参議院議員、長島一由神奈川県第4区総支部長とともに

【連絡先】早稲田夕季 後援会 〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-12-10 TEL&FAX 0467-24-9371(※)

ホームページ: <http://www4.ocn.ne.jp/~yuki12/> メール: [himawari-yuki@quartz.ocn.ne.jp](mailto:himawari-yuki@quartz.ocn.ne.jp)

※不在の場合は、留守電にお名前を入れて下さい

あなたの声をお聞かせ下さい!